

本県教育 各国から視察 世界研究会106人 授業に感心



福井大附属義務教育学校の授業を視察する世界授業研究会の会員ら＝27日、福井市の同校

世界授業研究会(WALS)の各国教育関係者が27日、学力全国トップクラスの福井県を訪れ、小中高校の授業を視察した。参加者は県内教育関係者らと分科会などで意見交換し、各国での学習指導力向上に向け知識を深めた。

同学会は2006年に設立され、現在の会員は世界34カ国の約710人。各国で研究会や視察、講演などを行っている。福井大と県教委が福井の教育を世界に発信しようとして、国内での学会会合に合わせて県内4校での授業見学プログラムを企画。14カ国の会員106人が参加した。

福井市の福井大附属義務教育学校にはシンガポールやドイツ、英国の教職員ら約30人が訪れた。数学の授業では、4人一組となった生徒が、平行する2本の線に垂線や斜線を加えて同じ大きさの三角形を作り出す様子を見学。会員は、協働で課題に取り組む授業に感心していた。

分科会では、同大教職大学院の担当者らが附属義務教育学校の取り組みを説明。会員は、「教師たちは教科の枠を超えて授業研究を行い、カリキュラムに生かしている」などと説明する担当者と意見交換していた。(中野克規)